

巻頭言

赤堀 正明

元日の夕刻に寺が揺れた。
能登半島地震の余波であった。

この大地震による住宅被害は一五〇〇棟を超え、死者二三八人に及んでいる。テレビで被災地の報映を見る度に、ご遺族、被災者の方々の心痛を感じる。

地震発生の原因は研究者によれば、珠洲市の地下の断層に流体が流れ込み、断層の滑り（スロースリップ）を引き起こしたとされる。流体の量は、二九〇〇万立方メートル、東京ドーム二十三個分にも上るとみられている。

猫は地震を予知

猫は地震の前には次のような異常行動が見られるそうだ。

- ・ そわそわして落ち着かない
- ・ 何かを訴えるように鳴き続けている
- ・ 突然、家中を走り回る
- ・ 外に出たがる

・背中の毛を逆立たせている

・どこかに隠れてしまっただけでない

「ぽぼねい」

また、猫が異常な行動をとる理由として、

猫は非常に耳が敏感なものと、人より地面に近いので、地面からの揺れをダイレクトに感じるのです。

地震が来る前は地面から音が鳴るらしいので、動物は地震を予知できるのです。

(某動物看護師の見解)

「ねこのきもち」のアンケートでも、約四割の飼い主から猫の異常な行動が見られたと報告されている。

輪島市のオスネコの「つぶ」は地震が発生した一日から行方がわからなくなり、二十六日ぶりに帰ってきました。猫友達からの連絡と動画で確認したそうです。保護された時は目も虚ろで、あまり鳴くこともできないほどに憔悴していた「つぶ」。いつもツンとしていた「つぶ」も戻ってからは家族に甘えるようになったそうです。

(石川テレビより)

猫も亦、気候の変動には敏感なだけに心労があるようです。

温暖化で子供が減る

最近気候の変動が子供を産みたくなくなる原因になることが論議されている。「気候不安」とか「エコ不安」と呼ばれている。

二〇二三年は人類史上最も暑い年になった。猛暑や干ばつ、山火事、洪水、ハリケーンが頻発して、人々の生活に大きな影響と不安を及ぼしている。一方、気候変動対策は遅々として進まず、危機感や焦燥感だけが高まっている。

こうした中で、気候変動が人々の精神的健康に悪影響を与えることに関心が向けられている。

この事が注目されるきっかけになったのは、アメリカ心理学会（APA）の二〇一七年に公表した報告書「気候変動のメンタルヘルスへの影響」にあるとされている。報告書には「気候が徐々に長期にわたって変化すると、恐怖、怒り、無力感、徒労感などさまざまな感情が表面化する可能性がある」としている。こうした感情を指す用語として「気候不安症」「クライメート・グリーフ（気候悲嘆）」などがある。

殊に注目すべき点として「気候不安症」に代表される感情は「気候変動に加担する罪悪感を背景に消費行動を抑制する」「将来について大きな不安と恐怖を感じ、子供を持たないことを選択する」といった行動を若年世代にもたらしている。いくら景気浮揚策を講じてても、少子化対策を打ち出しても、気候変動への不安などが解決しなければ、少子化の歯止めとな

らない。

災難の根源

日蓮聖人は地震・水害・風害などの気候変動の不安を取り除くことを国土の安穩の条件とされている。

『立正安国論』に「災難の根源等を知らざる者」と災難を止める者の条件を挙げられ、災難を止めるにはその興起する根源を知らなければ止めることはできないとされる。

その根源とは、死後、極楽浄土への往生を目的とする浄土門、観念・観法に依る禅門、祈祷に因る成仏を願う密教門などを批判し、釈尊の生まれられた此土を安穩な国土にしていく法華経の教えを實踐するということとなる。

ここから日蓮聖人の論旨を読み解けば、地球温暖化による異常気候は人々の心の持ち方の誤りにあると指摘していることに異ならない。

私達の一念は国土に及ぶことを想起しなくてはならないのである。